



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.38

'02 春号

微香

好文木

（微煙タイプ）

ほのかな香りが魅力です。

皆様にご愛されつづけた名香「好文木」に、
もう一つ新しい香りが加わりました。

「微香好文木」（微煙タイプ）は、伝統ある「好文木」の
気品あるたずまいはそのままに、調合の技を重ね、
残り香のような、ほのかで優しい香りを創りだしました。

貴重な天然香料のみを使用しながらも、煙もひかえめにして、
より上品な調いをたじせつにしたお煙草です。

お煙草としてはもちろん、お部屋焚きとしてくも愛用下さい。

標準小売価格 一、六〇〇円

（消費税別）



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市東区町東1丁目4番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672



大阪の南海本線堺駅にあるフラッグシップは、駅ビルと連った街並みをつなぐ新しいスペース、いくつかの個性的なテナントをはじめ、イベントやブライダルが楽しめる「自由街路」です。今回は、このフラッグシップ二階にある「古香堂」を訪ね、スタッフの佐藤さんとお話を伺いました。

新年あけまして

おめでと〜ございませう。

梅栄堂社長 中田信浩



旧年中は、たいへんお世話になりました。本年もよろしくお願ひいたします。

このようなむずかしい時期に、こんな責任ある立場になりました。当初は正直なところたいへん戸惑いを感じておりましたが、考えてみれば、絶好調の時に全く気がつかないような問題点など、スタートの時点から一つ一つ経験して、勉強させてもらうにはいい時期だったのでないかと思えます。

梅栄堂といえども、長引く不況下の中、たいへん厳しい状況であることに変わりはありませんが、昨年是有り難い年には、「野櫻好文木」や「聚香園」などの高級品の売れ行きが予想以上に順調でした。昨今は、一方で価格破壊が進み、一方でブランド品が売れるといったように、消費は二極化の傾向にあるといわれます。創業以来高級

かけの途中に、立ち寄るのにたいへん便利な所です。お店自身も、お線香、お香のほかに和風小物全般を扱っているの、時々覗いて下さるお客様も多くなり、お馴染みさん



「中に入るの、ちよつと」とためらわれる方のために、外にワゴンを用意しているのですが、それをきつかけに、声をかけてくださるお客様もいらつしやいます。ワゴンに置いている「AKIKO

などは若い方に人気がありますが、最近の若い方は、花の香りだけでなく、香木系の香りにも興味をもつていられ

線香を扱ってまいりました我が社といたしましては、この方針を貫き、より良い香りづくりをめざしてまいりたいと考えております。また昨年は、念願の「微香好文木(微煙タイプ)」と「花さやか」の新製品も発売させていただきました。おかげさまで好評をいただいております。「微香好文木(微煙タイプ)」に関しては、「漢方でありながら煙をひかえめにする」ということに苦労いたしましただけに、たいへん嬉しいことでもございました。

社長が変わりまして、地道に「より良いお線香づくり」をめざす梅栄堂の方針を引継ぎ、精進させていただき所存でございますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

お店を訪ねて

古香堂

香木系の香りが
若い方にも人気です。

開店から一年三ヶ月、当初わたしは販売経験もなく、お線香をはじめ、商品についてもほとんど知識もなかったの、少し不安なスタートでした。

幸い、ここは駅にありますから、お出

るのには、驚きました。また、「夜、眠りにくいから」とおっしゃって、お香を求められた男性もいらつしやいます。その方には「圓成」をお勧めしましたが、それから、また来店して頂きましたので、効果があつたのでしようね。(笑) 小物のほうは、ちよつとしたお土産にご利用頂いているようです。ユニバーサルスタジオができて以来、外国のお客様も増えました。やっぱり日本のお土産には「和」の香りのするものは喜ばれますね。

商品もだんだんと新しいものが増え、また香りのことも少しずつわかってきたような気がします。お客様からいろいろアドバイスを頂きますし、今後も勉強をして少しでもお役に立てたらと思

っています。(談)



◀売場担当 佐藤さん

正倉院の白檀の香りを分析してみると：

白檀の香りはサンタロールと呼ばれる化合物が発する特有の香りであると信じられています。その点では何ら疑いはないでしょう。ただ、化学的にはサンタロールには科学的に構造に違いがある、サンタロール α 、サンタロール β の二種類があるとされています。

その違いは機器分析では簡単に区別する事ができます。それで調べてみると、白檀にはサンタロール α の方が多く含まれてるのが普通です。でも香氣として、また化学的な性質で両者が違いますがと言えば、ほとんどないのも事実です。ですから、我々は香氣として見

とに成功したのです。それも数カ月で再現出来たの

です。ところで、古い白檀ではどのような特徴があるかと言

いますと、サンタロールが非常に少なく

なっていて、白檀の香りはほとんどし

ない。同時に油分の構成成分が複雑にな

って、新しい現在の白檀には含まれない

ような成分が数多く認められる。これはサンタロールが変化して新たな

成分が出来たのではないのか？とも考

えました。そのことも一部では確認出

来ました。でもそれだけでは説明出来

ない物が多くあるのです。

サンタロール(白檀の香り成分)は、常に変化しているのです。

例えば、その中のある化合物は香の材料を五十年も百年も保管していれば必ず共通してできる物があります。これには全く香氣はありません。そこで、

るときにはわざわざ区別せず、まとめて白檀はサンタロールが在るの本体ですとしています。そのサンタロールは白檀油の九十%以上を占めています。新鮮な白檀油は透明で、清澄な油分です。でも長時間おいておきますと着色してきます。この着色は化学的に油分の構成成分が変成して、複雑になってきた結果です。一般的に言えることは、多くの成分が混じり合っているときには濃い薄いはあっても着色しているのが普通です。

問題はこの着色なのですが、早ければ数カ月も保存したら始まりますが、数年かかるのが普通です。その違いは何に依るのかなということですが、油分の本質的な違い



私の周りには多

くの天然の薬(草根木皮の形をとどめた物)があり、古いのは百年を越えて保存

してきた物もあります。そこで、それらについても調べてみますと全てでは

ないのですがもともと油分を含んでいるような薬物だった、同じものが出来ていたのです。とすれば、サンタロールが変わって出来た物でもないの

です。多くの成分の内、サンタロールから変わった物を化学的に決めてやろう

と思いましたが、各種の実験を行っているのですが未だ判っていません。その

もつとも大きな理由は、サンタロールから変成した新たに出来た成分が、保

管中にまた別の化合物に変化してしまっているからです。最終的な化合物の

なのか？白檀の作り方の違い？産地による違い？などと、多くの事が考えられますが、私の経験からすれば、先に挙げた理由に依ることはないと言いますが、もつとも大きな理由は保管条件の違いだと思っております。

白檀の保管を目的に始めた研究ではなかったのですが、当初のいきさつは正倉院の中に保管されていた白檀を分析してみたところ、サンタロールがあることは確認できたのですが、その量は非常に少なく、現在のものとは較べものにならないくらい減っているし、他の成分の構成も複雑になっていたのです。その研究を進める過程で、なぜこんなことが生じるのかな？、またどのようにすれば再現できるのかな？と考えながら各種の実験を行ったのです。結論だけ言えば、千二百年も保存されていた白檀と同じ成分構成のものを目の前に再現させるこ

ことは判っていても、途中のことが全く判っていないのです。それでもはっきりとしたことは、常にサンタロールなどは常に変化を繰り返しているのだなあということですね。先回、白檀の仏像の多くがほとんど白檀特有の香りがしないと書きました。サンタロールがほとんど減っていくのですから、当然のことなのです。

次回は其の変化のもつとも大きな要因を探って、適切な保存とはどうするかについて、考えましょう。



Profile

■ Profile ■
 米田 誠典(よねだ かいすけ)
 大阪大学薬学部助教授 薬学博士
 神戸市生
 専攻:生薬材料科学 薬用資源学 薬史学
 平成五、六年と正倉院での第二次薬物調査に従事し、現在も続行中。
 奈良・平安時代以来の願望であった沈香の生木を我国で初めて導入に成功し、栽培中。





カーネーション

母の日に欠かせない花

どこの花屋さんにも、いつ行っても見かけられる花、それがカーネーションですが、原産地は南ヨーロッパから西アジアにかけて。草丈は三十一〜四十七センチぐらいになるナデシコ科の多年草です。



古くはギリシャ神話にも登場し、「ゼウスの神」の冠にも使われ、「セウス」を意味する学名の「ダイアンサス」は、このことに由来しています。

さて、カーネーションといえは、なんといっても思い出すのは、母の日ですね。それでは、なぜ母の日にカーネーションを贈るのか、ご存知でしょうか？

一九〇七年、アメリカのカウエ

ストバージニア州に住む女性が、母親の命日に教会の人々に白いカーネーションを配りました。それがきっかけとなり、七年後には当時の大統領のウィルソンが、五月の第二日曜日を「母に捧げる祝日」と決め、国家的な行事になりました。以来、一年に一度、母の日には感謝の気持ちを込めてカーネーションの花が贈られるようになったのです。ヨーロッパでは観賞用として早くから栽培されていたカーネーションですが日本に入ってきたのは江戸時代の初期。オランダ人と共に渡来し、そのため当時は「オランダ石竹」と呼ばれていました。カーネーションの香りは、フローラルな甘やかさと、丁子の成分を含むスパイシーな緊張感を合わせもった、バランスのいい香りです。ここ百年ほどの品種改良はめざましく、品種、カラーの豊富さは、類のないほどです。またカーネーションは、花の美しさ、香りの良さの他に、食べて美味しいというのがもう一つの魅力です。最近ではエディブルフラワー（食用花）として、サラダやデザートに、またジャムや花酒としても使用されています。

●話題

関西テレビにて放映

出身の女優沢口靖子がツアーコンダクターに扮し、毎回堺の歴史や街並みを紹介する番組「沢口靖子の堺旅人」今回（六月十五日）のお客様のご要望は、「線香の歴史を知りたい。」ということ。番組では、堺で高級線香が作られるようになった由来や、原料となる天然香料の配合の妙や職人の技などが、梅栄堂での取材を折り込みながら、お線香についての情報がいろいろな角度から紹介されました。

また、ジェイコム、ケーブルテレビでは、「堺の伝統産業一線香」のコーナーで、梅栄堂協力の映像が上映されました。
ABCラジオが飛び込み取材
ABCラジオの番組「歌はおまかせ小山乃里子です」では、リ

ポーターが街に飛び出し、いろいろな所から、天気予報と現場の中継をするのが人気の番組。九月二十一日の放送日はお彼岸にあたり、お彼岸にはお墓参り、それには線香が必要というわけで線香の梅栄堂のショールームを直撃取材。一本二千五百円の伽羅入りのお線香には、小山さんもビックリ！

学園祭で、香道体験
堺女子短大の学園祭（かおり祭り）では、イベントの一つとして「香道体験」が催されました。当日は、梅栄堂の中田栄好が前回同様、講師として参加、香道の指導をさせていただきました。
工場見学
俳句のへきさくらさく、三国ヶ丘高校OBの方々他、たくさんの方々が香席や工場見学にご来社されました。

●新商品紹介

微香好ま本（微煙タイプ）

ほのかな香り、煙ひかえめ

梅栄堂の「好文木」に新しい香りが加わりました。「微香好文木」（微煙タイプ）は、好文木の気品はそのままだ、調合の技を重ね、静かで優しく、残り香のようなほのかな香りを創り出しました。また、煙もひかえめにいたしました。おかげさまで「微香好文木」（微煙タイプ）は発売早々大好評をいただいております。お線香はもろろん、お部屋焚きとしても、是非ともご愛用いただきますよう、ご案内申し上げます。

花さやか（有煙タイプ／微煙タイプ）

漂々優しき、新しい香り

新製品「花さやか」は優しい花の香り。古代ギリシャ時代から愛され続けたカーネーションを中心に、ばら、すみれ、水仙などのかぐわしい花々をブーケ調に配合いたしました。優しく漂々、やすらぎの香りを一度おためしください。



花さやか（微煙タイプ/左）（有煙タイプ/右）
共に標準小売価格 1,400円（消費税別）
微香好文木（微煙タイプ）
標準小売価格 1,600円（消費税別）